

にじいろくれよん

呉を彩る人々を紹介する

呉市市民協働センターニュースレター

2021.6 vol.19



PICK UP PEOPLE

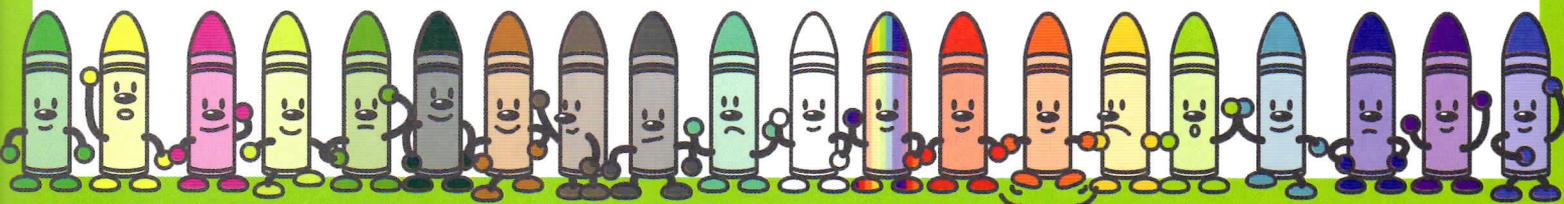
今回の
くれにょん

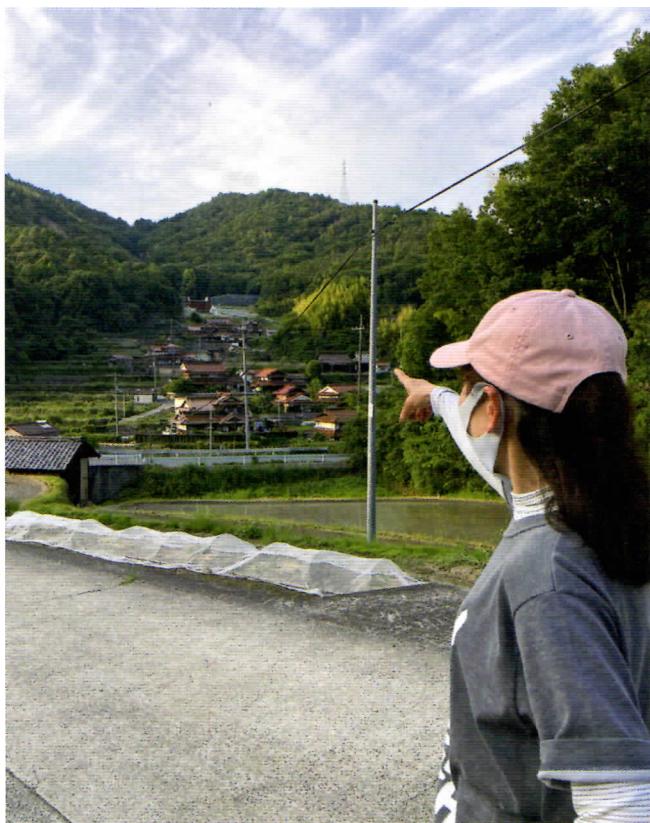
安浦町防災リーダーネットワーク/やすうらみんなのひろば

藤岡 牧子さん

くれにょん…呉を彩る活動をしている呉市民 くれまにょん…呉マニアな呉市民

未来の呉を描くんだ!





「あの失敗」を二度と してはいけない

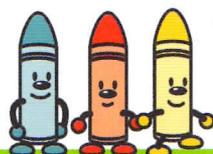
「あの失敗を、2度としてはいけないんです。あの時、私は逃げなかった。サイレンが鳴ったのに。あんなに、家の周りで消防車が『避難してください』と呼びかけながら回っていたのに。あんなに防災について学んでいたのに。『私は大丈夫』と思っていた」。2018年7月6日の夜。安浦町の下垣内地区、中畑地区、下原地区では長く降り続いた雨により大規模な土砂崩れが起こり、死者も出ました。下垣内地区で暮らしている藤岡さんは、その日の恐ろしい経験と反省から、1年後に「安浦町防災リーダーネットワーク」を立ち上げて、学校と危険箇所を調べたり、地区間で連携して勉強会をしています。「防災に対しては、それぞれの体験や思いや考えがある。でも、普通に暮らしていると意識は遠のいていってしまう。ちゃんと気にしていただけるのは、ネットワークのおかげです」。穏やかで物静かな話ぶりの藤岡さんですが、ネットワークの立ち上げに奔走したり、豪雨災害後に地

域ではじまった地域食堂に参加したり、地域のフリーペーパーの取材を担当したり、本当にパワフルです。「何やっても必死になっちゃう。性分なのかな」。藤岡さんは竹原市の出身。結婚後も竹原に住んでいましたが、2人の子どもが高校生、中学生の頃に夫の実家がある安浦町に引っ越しました。引っ越してすぐに夫が癌だと発覚。1年ほど治療をした後に亡くなりました。2人の子どもを育てながらの大変な暮らしの中でも、ダンスチームを立ち上げたり、市原地区・中畑地区・下垣内地区の頭文字を取った地域づくりの共同体「緑の里 いなし」で収穫祭や広場の整備をしたり、地域の活動に積極的に参加してきました。そして、子どもが独立した後、新しいことに取り組みたいと考えて、人権について学ぶ社会人講座に通いました。2年目に「防災」についての講座を選択して避難所での問題などについて学び、一気に防災への興味を持ちました。防災関連のイベントに参加し、呉市の防災リーダー研修も受講。「防災について自分以上に意識が高い人はいない!と思うくらいだったの」。そんな中で2018年7月豪雨が発生しました。その日、昼にはサイレンが鳴り、放送があつて、夕方には消防車が走り避難を呼びかけていました。「1週間くらい、ずっと、シトシトと雨が降っていて。夕方までもそんな雨だった。夕方に外に出たら、道が川になっていました。ザブザブと水の中を歩きながら、近所の人と『気をつけようね』と話をして別れました。家に戻ってから、夜9時頃、今思えばとてももん気に、予定していた避難訓練について町内の方と電話していたんです。そうしたら、



今、興味があるのはフードバンクのこと。料理が大好きで、地域食堂「やすうら みんなのひろば」も立ち上げから参加しています。

画像提供: やすうらみんなのひろば



自分の経験と反省を
未来に活かしているんだね!



「春は桜が綺麗なのよ。その時に来て欲しかったな」と残念そう。小学校跡地で地域の方が管理をしている「緑の里 いなしの広場」。

一生懸命学んだのに 自分ごとに できていなかった

雷のような大きな音がして。玄関を開けたら景色が変わっていた。膝まで水が流れて。家の窓に黒い点のようなものがびっしり。後で、土砂と知りました。一睡もできずに夜が過ぎて、朝、外に出て家の裏に回ったら、上から滝のように土砂が流れてるんです。ああ、大変なことが起きたんだ、と。それまで『台風でも大雨でも私の家は大丈夫だった』って思っていた。防災を一生懸命学んだのに、自分ごとにできていなかった。水も出ない、電話も通じない中の数日間の避難生活、その後の復旧・復興活動を経て、2019年の春、町内の防災リーダーと繋がりたいと考えて呉市の危機管理課や他の地域の自主防災組織など、とにかく知る限りの人に声をかけました。様々な人の理解を得て、数回の会合を重ね、ネットワーク組織が立ち上がりました。「何もしないわけにはいかない。こんなむごい体験をしたのに」。災害後は、避難準備の段階で近所の方と一緒に避難所に行くことにしています。今回の撮影で伺った「いなしふれあい広場」。災害時の避難場所としての活用や災害前にあった収穫祭を復活させたいのだそうです。「ねえ、やろうよ。自分たちのために」メンバーの方にそう話す藤岡さん。「やろうよ」と、まずは声に出すこと、自らが楽しんで動くこと。それが、周り地域を動かす第1歩だと、その姿に教えてもらった気がしました。



PROFILE

藤岡 牧子 MAKIKO FUJIOKA

竹原市出身。呉市安浦町在住。呉市市民公益活動団体「ウィ・カメラ」代表。「安浦町防災リーダーネットワーク」発起人・メンバー。

くれによんが参加している活動を紹介
PICK UP GROUP

安浦町民に『防災は命を守るもの』だと伝えていく 安浦町防災リーダーネットワーク



呉市防災リーダーに認定された安浦町のメンバーのネットワーク組織です。安浦町の各地区での防災活動に必要な助言・支援をしながら『防災は命を守るもの』を伝える活動をしています。学校との防災マップづくりをしたり、研修会などを行っています。

問い合わせ：0823-84-6646

活動の様子はホームページをチェック!

<http://fukiyasuura.g2.xrea.com/www.yasuura.com/indexy.html>

みんなでつくって食べる地域食堂

やすうらみんなのひろば



手作りのあたたかいごはんを一緒に作って食べる地域食堂です。こどもも、保護者も、お年寄りも、みんなで気軽に集える居場所づくりを目指しています。

やすうらみんなのひろば

場所：安浦会館

問い合わせ：0823-84-2579(やすうら地域食堂実行委員会)

他にもこんな団体の活動に参加しています!

安浦町まちづくり協議会、緑の里 いなし、

ウィ・カメラ(ひろしま女性大学呉地区同窓会)

「くれボランティア情報」ホームページで団体情報をご覧ください。

くれ協働センターだより



「展示コーナー：SDGs特集」

「SDGs(エスディーゼーズ)」について展示でご紹介しています。SDGsはSustainable Development Goals(持続可能な開発目標)の略称です。皆さんがしている地域活動やボランティア活動、NPOの活動とは、きっと関わりが深いはずです。SDGsを知って、どう活動に活かすのか考えるきっかけにしてみてくださいね。7月末まで展示しています。



スタッフの
つぶき
STAFF'S TWEET

スタッフの佐々木です。子育ても落ちついてボランティアや地域活動してみたいけど、自分に何ができるのだろう?大して特技があるわけでもないし...と思っている方もいらっしゃるのではないのでしょうか。私もその一人です。そんな私が今調べているのは、手話や要約筆記、ファミリー・サポートなどの養成講座です。まずは講座を受けてそれを生かして地域活動をするという方法もあるのかなと思っています。詳しく聞きたい方はぜひ協働センターで声をかけてください。一緒にできることを探してみませんか?

ひろ協働センターだより



「図書コーナー：おすすめの書籍」

ひろ協働センターには、ゆっくりと本を読んでいただける図書コーナーを設けています。おすすめ本紹介コーナーでは、現在「SDGsがわかる!本」特集をしています。3冊の本をご紹介しますので、是非読んでみてくださいね。貸し出しもしていますので、気になる本がありましたら、スタッフにお声がけください。

くれ&ひろからのお知らせ



「呉市市民公益活動団体紹介ポスター展」

くれ協働センター、広市民センター1階で、呉市市民公益活動団体の皆さんがそれぞれに作成されたPRポスターの展示をしました。立ち寄れた来館者の方などが、じっくりご覧になっていました。また実施しますので、団体のPRの場には是非ご活用くださいね!

呉市市民協働センター

最新情報はホームページをご覧ください

<http://kurekyoudou.net>

くれ協働センター

〒737-8501 呉市中央4-1-6 呉市役所1階

TEL 0823-25-5602 FAX 0823-25-0302

開館日 火曜～土曜▶9時～20時/日曜・祝日▶9時～17時

休館日 月曜(祝日の場合は翌日)/年末年始

ひろ協働センター

〒737-0112 呉市広古新開2-1-3 広市民センター4階(JR新広駅下車すぐ)

TEL 0823-71-0321 FAX 0823-71-0291

開館日 9時～17時

休館日 水曜(祝日の場合は翌日)/年末年始

センターの休館日やイベント等をメールでお知らせします!
協働センターご利用案内メール

greg@kurekyoudou.net

件名・本文未記入で空メールを送っていただくだけで登録出来ます!
右のQRコードで簡単登録!

